

目次

序章 対照の設定、問題意識、論点の確認

一 対象の設定、問題意識

(1) 旧慣存置政策とその背景

(2) 沖縄県土地整理事業とその帰結

二 論点の確認

(1) 沖縄村落社会の認識

(2) 旧慣土地制度について

第1章 沖縄の村落共同体に関する予備的考察

はじめに

第一節 旧慣地方制度の素描

一 旧慣行政区画と村落内組織

二 地方役人と行政機関

三 役人の内法への関与

第二節 村内法について

一 村内法の発生論

二 村内法の地域差

第三節 村内法と村の集会

一 村内法の執行と村の集会

二 地割の決定

三 村の裁判

まとめ

第2章 沖縄の旧慣土地制度の分析

はじめに

第一節 旧慣土地制度

一 耕地の概要

二 近世末期の農村

三 地割制の変容と解体

第二節 農民の生存維持のための共有地

一 割替制焼畑地の位置付け

二 本島北部の焼畑の概要

三 割替制焼畑地の経営

四 焼畑地保護のための共同労働とその意義

第三節 旧慣土地制度の山林原野と山林利用慣行

- 一 旧慣土地制度上の山林原野の区分
- 二 杣山と旧慣山林管理制度
- 三 杣山利用慣行をめぐる問題
- 四 明治期の杣山利用慣行
- 五 小括

まとめ

第3章 琉球統合過程 —沖繩明治期の旧慣存置政策の分析—

はじめに

第一節 近代地方制度の形成と沖繩

- 一 明治初期地方制度形成前期
 - (1) 府藩県三治の制
 - (2) 廃藩置県と大区小区制
- 二 明治初期地方制度形成後期
 - (1) 三新法の施行
 - (2) 三新法体制の修正
- 三 三新法体制と沖繩

第二節 琉球処分から旧慣存置へ

- 一 琉球藩の設置
- 二 沖繩県政の出発
- 三 旧慣存置期における法施行の状況

第三節 村内法の届出と成文化

- 一 内法成文化の端緒 —旧慣山林管理体制の復活—
- 二 内法の届出と成文化
- 三 内法私約説について

第四節 旧慣地方制度の改革と村内法の法的基盤の変遷

- 一 旧慣地方制度の改革
- 二 行政区画と生活領域の分裂と併存

まとめ

第4章 旧慣諸制度の解体と日本への制度的統合

—沖繩県土地整理事業の再定位—

はじめに

第一節 土地整理事業の背景 —旧慣諸制度改革論の台頭

- 一 旧慣諸制度改革への転換—人頭税廃止運動と琉球帰属問題の決着—
 - (1) 旧慣存置政策と明治23年『地方制度改革案』
 - (2) 旧慣諸制度改革への転換
- 二 旧慣諸制度改革の基本方針

第二節 土地整理事業

一 臨時沖縄県土地整理事務局の設置と沖縄県土地整理法の審議過程

(1) 臨時沖縄県土地整理事務局の設置

(2) 沖縄県土地整理法の審議過程

二 沖縄県土地整理法の概要

三 沖縄県土地整理事業の実施過程

(1) 土地処分

(2) 各作業過程

(3) 紛争処理

(4) 村落の対応 ―最終地割について

第三節 杣山問題

一 杣山開墾問題と杣山の官有地化

二 沖縄県土地整理事業における杣山

三 杣山処分問題

まとめ

終章 近代化の諸相―旧慣存置期と沖縄県土地整理事業の社会的影響

(1) 沖縄県土地整理事業がもたらしたもの

(2) 私有財産の成立と相続慣行の形成：長男単独一括相続という伝統の創造

[主要参照文献]